

## 令和3年度社会福祉法人岳風会事業報告

### 事業の総括

令和3年度もまた、新型コロナウイルスに翻弄された1年でありました。県下においてもまん延防止等重点措置が講じられ、延長されるなどして3密（密閉、密集、密接）回避を強いられる状況が続く中、新しい生活様式を取り入れながらの年でありました。施設内に感染症を持ち込まないことを第1に職員・利用者各々個人で身を守る基本的な日常動作の習慣化（マスクの着用・手洗いの励行・アルコールによる随時の手指消毒など）に努め、また検温や施設内の手すり・スイッチの消毒や各部屋の換気、空気清浄機などの活用など徹底して行っています。市内や近隣市町や同様の施設等でも感染が広がっていたが、現在まで岳風会においては関係一同（利用者や職員）には罹患者が一名もでていないことは幸いなことだと思います。

このような状況下での事業運営であったが、感染症が終息する見込みが立たないなか、これからも徹底した感染予防措置を講じながら、利用者支援の継続に努めていきたいと存じます。

『人権擁護と虐待防止の徹底－利用者本位のサービスの提供－』においては、健やかな暮らしや日中活動を維持するための通常のサービス・支援は普段どおり行えたものと思います。権利擁護や虐待問題については、事例・事件等を取り上げ、研修しました。日常の利用者支援が慣れあいになり、その中で言動等適切でなくなりがちであるので、職場内研修や各部所会議の議題としてその都度取り上げ、職員間での意思・意識の統一を行った。個人情報取り扱い、相談・苦情への対応も適切に対応できたものと考えています。外部研修にも積極的に参加しました。

利用者本位のサービスの提供については、施設入所者に関しては、感染のリスクを回避するため外出・外泊の禁止、ご家族との面会等の自粛と制限をこの1年間お願いしたところです。併せて通常の支援の在り方や行事等の取りやめも続き、利用者にとってストレスとなっているようです。このために、少しでもストレス緩和になればと少人数でのドライブや職員による買い物支援をこまめに行ってきました。これからも通所利用者も含め各々の個別支援計画に沿った支援に努めていきたいと考えています。

利用者の高齢化（入所者平均 60.5 歳）・重度化が進んで病気やけがのリスクが高くなっています。医療機関への通院等の同行・付き添いに看護師名2名が中心となった支援を行い、また必要に応じて家族への連絡・報告・協力を行っています。

『経営基盤の安定・強化と信頼される組織運営』においては、業務の継続や改善に向けた努力を引き続き行いました。入所者の長期入院やコロナ禍の影響で通所利用者の利用回数の減少が見られたが、令和3年度は報酬単価の改定があり、生活介護事業や施設入所などの「自立支援給付費」の報酬単価が上がったことなどから、安定した収益を上げることができました。ただ収益が減少している事業所もあって、まだ厳しい法人経営の構図は依然として続いています。各事業所の利用者数、利用率アップを図ることが法人全体の経営の安定を図ることになるので、各関係機関、相談支援事業所と連携して経営の安定化を図りたいと思います。

運営状況・情報の公表については、障害福祉サービス関連の情報検索サイトへの掲載、法人のホームページを通じて行っています。

『人材の育成、働きがいのある職場づくり』に関して、風通しのよい職場環境を基本とし、福利厚生、労働時間の適正管理、年次有給休暇の計画的付与を実践しているところです。職員の健康管理面について、労働衛生委員会の開催（月1回）し、産業医の健康相談等行っています。また、メンタルヘルスケア等にも取り組んでいます。

人材確保については、慢性的な人材不足が続いているが、職種によっては高齢者雇用も積極的に進んでいます。このような対応で現状を乗り切っているところです。

公正な処遇のために「人事考課」の規程を整備し、今年度から実施しました。また、「福祉・介護職員等処遇改善加算・特定処遇改善加算・臨時特例交付金」はキャリアパス要件の加算Ⅰを受け、基本給、手当及び賞与に反映し、職員処遇の改善を図りました。当法人でいつまでも働き続けたいと思われるように、日常の充実感を得るための条件を整えるよう努めています。

職員の資質及び支援技術の向上並びに利用者支援の充実については、資格取得を奨励し助成金を交付するとともに各種会議や研修等（今年度もリモート配信が中心であった。）に積極的に参加しました。施設内においては、職場研修を通じて施設利用者の人格等を尊重する精神、職務に対する責任感、自ら進んで職務を遂行する意識の醸成を図りました。

地域貢献への取組については、鹿屋市社協との連携のもと、市内5カ所の「子ども食堂」に毎月1回の食料支援（延べ11回）を行いました。その他吾平地域の高齢者等を対象に、生きがいづくりや外出・交流の促進、買い物等の交通手段の提供を行う「生きがいづくり型ドライブサロン事業」（職員の派遣、バス等の提供）を計画していましたが、今年度はコロナ禍の影響で実施に至りませんでした。

事業を推進する上で、様々な困難や制限があった令和3年度でありましたが、それぞれの事業毎について振り返ると、

#### 【拠点区分：陵北荘】

障害者支援施設陵北荘では施設入所支援、生活介護、就労継続支援B型、短期入所、特定相談支援事業所「虹」の事業を行っています。

施設入所支援事業は、今年度は年度当初から入所定員40人でスタートしました。少人数としたことで目が行き届き、日常生活における支援がさらに充実するものと思っておりましたが、職員の離職（補充が思うようにできなかった。）もあり、またコロナ禍でもあって、利用者満足されるサービスが提供できたものかどうか懸念しているところでもあります。

入所（定員40人）の利用者数（延）は14,199人（R2との比較：399人減）で1日平均38.9人となっています。定員は常に充足していましたが、病気等のため2、3ヶ月間長期入院された方が数名あったことからこのような結果になりました。

短期入所（定員2人）は年間延57人（R2との比較：23人増）となっていますが、コロナ禍以前の状況とは大きな違いがまだまだあります。

生活介護事業は日中活動事業として、施設入所の方が多く利用されています。通所の方は18人程度で、合わせて年間12,255人（R2との比較：103人減）の利用がありました。1日の平均利用者数は39.8人（定員44人）になっている。コロナ禍の影響や、施設入所者で生活介護を利用している方の長期入院等があったために利用減につながったものと思います。この事業は陵北荘全体の収益の中心であるので、常時定員を充たすようさらに多くの利用者確保に努めていかなければと考えています。

施設入所支援、生活介護事業では日常生活において疾病、転倒や誤嚥などのリスクが高くなってきていることから、リスクマネジメント・ヒヤリハット、感染症等に関する研修を徹底するとともに、看護師2名体制を継続して予防と対応に努めたところです。

就労継続支援B型事業では、利用定員15人（1日）に対して年間を通して16～17人の登録がありましたが、平均利用者数（1日）は10.0人で昨年度と比較して減少しています。利用者数（延）は3,094人（R2との比較：161人減）でした。また就労部門の売上は、木工・食

品加工、委託作業その他で 6,038 千円となり、利用者への工賃は月平均 12,347 円を支払いました。販売売上は昨年度と比較してほぼ同水準ですが、利用者への工賃支払額は前年度と比べて若干増えています。これは前々年度から取り組んでいる委託作業（新鮮野菜の袋詰め等）の割合が増えたために、収益（純益）が上がったことによります。販売実績の目玉であるバザーをここ 2 年間行えない状況が続いています。特に木工製品等は販売の場が殆どなく、今後の授産作業の内容を見直す時期が来ているのではと思っています。

相談支援事業所「虹」では相談支援専門員 4 名体制（うち 2 名は障害児相談）で業務を行ってきました。令和 3 年度は障害者 349 人、障害児童 105 人との契約があり、その利用者との関わりの中、サービス利用計画書の作成やモニタリングなどその他のあらゆる相談業務を行ってきました。対応件数（R2 障害者 1,410 件、障害児 353 件→R3 障害者 1,371 件、障害児 402 件）となっています。自立支援費の実績は（R2:24,197 千円→R3:25,449 千円）となっています。

「基幹相談支援センター」は鹿屋市社会福祉協議会が委託を受け、障害者全般に係る相談事業を一元的に行うことになり、当法人からは相談支援専門員 1 名が出向しました。

#### 【拠点区分：就労パン工房】

就労パン工房では、「パン工房ぴーたーぱん」の就労継続支援 B 型事業と「舞ハウス風」の共同生活援助事業を行っています。就労継続支援 B 型事業では、利用定員 20 人（1 日）に対して年間をとおして 25～26 人の登録があり、年間延 5,626 人（R2 との比較：77 人減）の利用で、平均利用者数（1 日）は 18.3 人となりました。この結果訓練等給付費は 48,656 千円（R2 実績 48,042 千円）となり、利用者確保、訓練等給付費収入は順調でありました。今後は利用者一人一人の利用回数の増大が図られるよう支援していきたいと考えています。

就労部門においては、売上目標の達成のため、各種バザーへの参加や販路の拡充に努めましたが、コロナ禍の影響が少なからずあった 1 年でした。またパンの原材料が高騰する中、売価の設定なども検討実施しました。その他別に借用していたポップコーン作業所を店舗内に設けるなどして経費節減に努めました。

令和 3 年度のぴーたーぱんの売上は 24,638 千円で、利用者への工賃は月平均 17,440 円を支払いました。

「舞ハウス風」においては、年間延 2,152 人（R2：1,825 人）の利用で、平均利用者数（1 日）は 5.9 人となっています。訓練等給付費は 8,130 千円となりました。

#### 【拠点区分：垂水事業所】

垂水事業所では、就労継続支援 B 型を展開しました。B 型事業は利用定員 20 人（1 日）に対して年間を通して 17～18 人の登録がありました。年間延 3,378 人（R2 との比較：466 人減）の利用で、平均利用者数（1 日）は 11.0 人と低調であり、この結果訓練等給付費は 27,010 千円（R2 実績 30,664 千円）となりました。利用者確保が何よりも大きな課題であり、そして利用日数の少ない利用者の利用回数を増やすことが今後の努力目標となっています。

就労（販売）部門においては目標の達成のために、ほぼ順調に推移し目標は達成できましたが、全体の経費をカバーするには純益が不足するような状況が続きました。今後は店舗販売の拡充、昨今の原材料の高騰等を踏まえた上での製品価格の適正な見直しや経費節減等、また、売上の主力となりつつある「道の駅」での販売について、買い物客が多くなる連休時（月曜日祝日や年末年始を含む。）の対応のための職員の勤務体制も検討する必要があると考えます。

令和 3 年度の売上は 21,788 千円で、利用者への工賃は月平均 17,356 円を支払いました。

【拠点区分：笠之原事業所】

共同生活援助事業所舞ハウス「そよ風」、「ゆめ」は開設2年目の9月に定員14名の満床となり現在に至っています。利用者が住んでよかったという思いを抱き、落ち着いた穏やかな日常を送ることができるよう、様々な支援に努めてきました。ただコロナ禍において、様々なこと（外出、家族との面談等）を制限せざるを得なかったことで一部不満もでていしましたが、現在ではご理解いただいているところです。

入居者1名のケガによる長期入院がありましたが、年間延べ4,922人（R2との比較：365人増）が利用しました。平均利用者数（1日）は13.5人となり、訓練等給付費は39,243千円（R2実績36,059千円）となりました。

舞ハウス入居の14人は、日中活動として陵北荘の生活介護事業やパン工房ぴーたーぱんのB型事業、その他の事業所を利用されています。